



会長 佐藤 友彦 幹事 櫻井 武志

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会

TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

佐藤 友彦

皆様、こんにちは。本日もお忙しい中、例会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。

前回の例会まではロータリー月間のテーマに沿って2月は紛争予防・紛争解決について、そして今月は水と衛生月間という事で主に水をテーマにお話しさせて頂きました。本日は話の内容を私のごく日常的な事でお話をさせて頂きます。一昨日、次女が中学校を卒業しました。振り返ってみると15年という年月はあっという間でついこの前はようやく小学生、その少し前ははいよいよ保育園、そしてその前は赤ちゃんとして日々の成長を感じていたことを思い起こすと感慨深いものがあります。この後3年すれば成人となると自身の人生においての年の重ね方を改めてよく考える必要があると思った次第です。

さて、ここからは当日、卒業式に出席した中で思った事や感じた事を話します。

先ず最初に私が中学校を卒業した32年前と比較して一番大きな違いは当時、私たち生徒は体育館のフロアに並べられた椅子に座り名前を呼ばれ舞台の壇上に上がって卒業証書を校長先生より頂きました。この光景が皆様にとってもごく一般的なものではないでしょうか？そして現在はどうかと言うと舞台ステージの下にひな壇状に椅子を並べて座っていて、証書を授与する際には体育館フロアに敷かれたレッドカーペットを歩いて設けられたステージに上がるといった設えです。私の常識的に考えると上座、下座の事と同様に生徒が来賓や先生方を見下ろす形ってどうなのだろうかと思う反面、この場の主役は卒業する子供たちである、所謂卒業生ファーストという観点であればよく考えた設えだと高く評価できるものだと思います。何れにしても様々な事柄には人それぞれの視点や観点、そして何よりも現在までにその人毎に形成された考え方というものがあると改めて強く感じたと共に次代も良い意味で変化していると個人的に感じたことをお伝えして本日のご挨拶に代えさせて頂きます。

ありがとうございました。

幹事報告

ガバナーより

1. 2024 学年度新規米山奨学生及び継続学生のためのオリエンテーション開催のご案内

日時:4月7日(日)

13:00~13:30 受付・登録、確約書の提出と奨学生の心得

13:30~14:00 クラブ カンセラーとの初顔合わせ

14:00~16:00 オリエンテーション

場所:藤沢駅南口第一相澤ビル

6階「受付・登録」8階「全体会議」

持ち物:カンセラーハンドブック、筆記用具、等

2. 決議審議会(2024)立法案(決議案)投票について

本日①信任状証明書、②2024 年決議審議会提出立法案(決議案)賛否投票用紙、③賛否投票にかける立法案提案書の3種類の文書を配信します。

4月12日(金)までに、①信任状証明書、②2024 年決議審議会提出立法案賛否投票用紙、をガバナー事務所宛て郵送下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

幹事報告

1. 次週22日は例会場が「ゆがわら万葉荘」となりますのでお間違えの無いようお願いいたします。

スマイルボックス

会員誕生日 平間章弘君(3/15)

葉維英君

3月9日上海で同窓会新年会を開催しました。二胡を楽しんだ後、熱く語り合える仲間で盛況に新年をお祝いしました。

葉維英君

初めての卓話です。よろしくお願いいたします。

青木義美君

来週は女子大生と久々の旅行でお休みします。ごめんなさい。もっとも女子大生と言っても孫ですが。

出席報告

ゲスト 0名 ビジター 1名
会員 22名 欠席3名(免除者0名)
出席率 86.36%
前回の修正出席率 86.36%
前々回の修正出席率 90.91%
事前メイクアップ 2名

ビジター 石森浩元君(東京八王子西ロータリークラブ)

卓話

葉 維英 君

こんにちは。湯河原ロータリークラブに入会してこれまで何回か卓話を担当して参りましたが、私のみの卓話は初めてとなりますので、改めて自己紹介と共にお話させていただきます。

・自己紹介

まずは経歴となります。上海に生まれ、1988年に日本へ留学、東京理科大学研究科経営工学修士、筑波大学ビジネス科学研究科企業科学博士満期修了を経て、中国と日本において様々な仕事に恵まれました。主なところでは(株)リバティージャパン(文具の間屋)社長、(株)ファンケルグループ アテナ化粧品、サプリメント製造販売)社長などを歴任し、上海平成ビジネストレーニングスクール(全寮制日本語教育、日本留学、就職斡旋)、東京アジア学友会(日本語教育、大学院進学指導)創業、(株)アジア太平洋協力会 代表取締役など、両国の架け橋となるような人材の育成にも努めて参りました。現在は東京理科大学上海同窓会会長、東京理科大学グローバル同窓会副会長、日中産学連盟会会長、日中友好会会長、日中協会法人会員、そして湯河原ロータリークラブ会員を務めております。

・故郷:上海について

続いて私が生まれ育った上海についてお話しいたします。

上海市は人口:2475.89 万人、面積:6340.5km²を有する、中国が世界に誇る大都市のひとつです。その歴史は古代の周の時代に始まり、秦・漢以降は、東呉、晋、宋、南斉、梁、陳、隋の時代を経て、唐代には華亭県の一部として、蘇州河の南に上海浦という村ができ、宋代には上海鎮とよばれるようになったとされています。1992年以降、本格的に開発された浦東新区が牽引役となって高度経済成長を続け、2010年には世界189カ国が参加した史上最大の国際博覧会である上海万博が開催されました。言語は学校や公式な場面で普通话(標準中国語)が使われているほか、呉語を代表する方言である上海語も使われています。日本でもよく知られている

小籠包や上海蟹、紅焼肉も上海が故郷です。街には浦東、豫園、外灘、上海城隍廟、田子坊、東方明珠テレビ塔、朱家角鎮、上海展覽センター、上海ディズニーランドといった観光地もたくさんあります。

・湯河原とのご縁、魅力的な湯河原

私と湯河原とのご縁は1989年8月、やっさ国際交流プログラムに参加したことから始まりました。その美しい自然と風景に魅力を感じ、2019年に湯河原へと移住を果たしました。

私が思う湯河原の魅力を簡単に表しますと「ハイキング+温泉+海の幸」です。

ハイキングとは山があるということでもありますが、春夏秋冬の季節を肌で感じられることでもあります。流れゆく清流に沿って日々変わる美しい風景を自分の足で確かめることで、私はどんどん湯河原が好きになっていきました。最近私も知ったことですが、湯河原パークウェイの料金所がある湯河原峠もその地所の半分は湯河原町であり、そこからは富士山を眺めることができます。湯河原は富士山が見える町なのです。

続いて温泉、こちらは説明するまでもありませんが、私が魅力を感じたのはハイキングコースとの距離の近さです。山と自然を感じながら、そのゴールに温泉が待っているというのは素敵なことです。さらに海の幸、湯河原には山ばかりではなく豊かな海もあり、温泉と共に新鮮な海の幸を楽しむことができます。こちらも大きな魅力です。

最後に私から、地方創生のヒントとなるような提案をしたいと思えます。それは湯河原を「旅の拠点」としてはどうかということです。湯河原の周辺には箱根、三島、伊豆がありますが、それらを一気に巡ることは簡単ではありません。しかし例えば湯河原に2泊すれば、ある日は箱根、ある日は伊豆と気軽に行き来することができます。もちろん湯河原もその行き先のひとつとして十分に魅力的だと思います。

ご清聴ありがとうございました。



撮影:葉会員